



氏名	永井 誠 / NAGAI makoto	職名	教授	学位	文学修士
所属	一般科目 / 荒川キャンパス	E-mail	nagai(at)metro-cit.ac.jp		
シーズ キーワード	教室内第二言語習得（英語教育）				

相談可能なテーマ	講座・講演会のテーマ例
<ul style="list-style-type: none"> ・大意取りのリーディング ・日本語発想から英語表現への橋渡し ・コミュニケーションのための基礎文法 ・英文法への認知的取り組み 	(同左)

研究・教育内容の紹介

<大意取りのリーディング>

英文のリーディング指導において、複雑な文法構造や高度な内容を含む英文の大意を取る技能を習得させる方法を研究～開発し、実践している。基本は[主語+述語のペア(+キーワード)]を認識することと、その階層構造をビジュアル化することである。それによって各文の[意味の骨組み]を捉えることができ、学習者が全ての単語の意味を知らなくても文章全体の大意を取ることが可能である。

<日本語発想から英語表現への橋渡し>

英語の基本的な文法構造が[主語+述語]であるのに対し、日本語の基本的意味構造は[主題(トピック)+題述(コメント)]であることから始め、日本語の「～は、～が」を安易に英語の主語にして非文を作ることを避けさせる。次に「～は、～が」が英語において(主語以外に)場所・時・方法・条件など様々な文要素として表現されることを理解させ、練習させることによって適切な英語表現ができるようになる。

<コミュニケーションのための基礎文法>

コミュニケーションを意味のやり取りと考え、疑問文と応答文の運用に必要な文法知識・技能を段階的に習得させている。①三人称の yes/no 疑問文(様々な時制・相・数への対応)、②一人称・二人称を含む yes/no 疑問文(主語や目的語のかたちが話者次第で変わることにへの対応)、③三人称の wh-疑問文(情報の種類の選択とそれに対する対応)、④一人称・二人称を含む wh-疑問文(総仕上げ)と続く。

<英文法への認知的取り組み>

文法を(「規範」ではなく)「意味とカタチのインターフェイス」と考え、ある意味を表現するカタチの候補(違い)と、ある形が表す意味の候補(違い)を体系的に習得させる。例えば、現在分詞と動名詞は(現在は)同じ-[ing形]なので、別々の文法項目として教授するのではなく同じカタチの別の意味(機能)として教授するのが学習者の情報処理にとって有益である。

利用可能な機器/施設	所属学会/協会
<ul style="list-style-type: none"> ・ CALL 教室 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全国高等専門学校英語教育学会 ・ 関東甲信越英語教育学会 ・ 法政大学英文学会